



<WICI ニュースリリース>

関係者 各位

第5回WICIジャパン「統合報告優良企業賞」の審査結果と表彰式

World Intellectual Capital/Assets Initiative(「世界知的資本・知的資産推進構想」以下「WICI」)の日本組織である WICI ジャパン(事務局 :東京都新宿区、会長 長友 英資)は、協力団体である「国際統合報告評議会(International Integrated Reporting Conference 以下「IIRC」、英国ロンドン市、CEO:Richard Howitt)」が展開する事業報告の簡潔・明瞭化により事業体のステークホルダーとの双方向コミュニケーションを高め、事業体と社会の持続可能性を向上させようとする「統合報告(Integrated Reporting 以下<IR>」の普及活動に呼応し、その活動を日本において推進する方策として、WICI ジャパン「統合報告優良企業賞」表彰制度を 2013 年に創設しました。それ以来、毎年、上場日本企業が発行した統合報告書について、所謂「勝手審査」の方式で評価を行い、今回で第 5 回目を迎えました。ここにその審査結果をお伝えします。

◎**統合報告優秀企業大賞**・・・「統合報告優秀企業賞」に値するものと評価されたものの中から、「統合思考経営(Integrated Thinking Management)」の実践に取り組み、その成果を簡潔明瞭に示すことにより、ステークホルダーが企業活動の将来を見通せるような報告の模範例として、またこの 5 年間毎年改善を重ねて統合報告書の完成度を高めてきた努力の積み重ねに敬意を表し、「統合報告優秀企業大賞」に値するものとして、次の 2 社を表彰する。

伊藤忠商事株式会社 (初受賞)
オムロン株式会社 (初受賞)
(アイウエオ順)

◎**統合報告優秀企業賞**・・・ペーパーベースの年次報告書を作成してきた伝統を承継し、株主・投資家向け報告を基軸にするか、あるいはCSR向け報告を基軸にするかのいずれにせよ、財務・非財務のデータを統合し、企業の価値創造活動を簡潔に示し、企業の将来が見通せるようにする統合報告書の作成企業として、次の 2 社を表彰する。

MS&AD インシュランスグループホールディングス株式会社 (3 回連続受賞)
日本精工株式会社 (2 回連続受賞)
(アイウエオ順)

◎**統合報告奨励賞**・・・<IR>に求められている重要なポイント(「基本原則」・「内容要素」等)を踏まえる表現において、「統合報告優秀企業賞」には届かないものの、独自の工夫により企業活動の実態が適確に捉えられるようするなどにより、将来の統合報告優秀企業賞に該当することが期待されるものとして、次の3社を表彰する。

味の素株式会社
住友金属鉱山株式会社
第一工業製薬株式会社

(アイウエオ順)

本件審査の詳細につきましては、別紙をご覧ください。

なお、第5回 WICI ジャパン「統合報告優良企業表彰」の授賞式は、2017年12月1日(金) 12:20～13:20、早稲田大学大隈講堂で開催される「WICI シンポジウム 2017」(プログラム等は WICI ホームページ: <http://www.wici-global.com/symposium2017/>) の行事の一環として執り行います。

WICI ジャパン会長

長友 英資

WICI ジャパン「統合報告優良企業表彰」審査委員長

松島 憲之

※マスコミ関係者の方が、第5回 WICI ジャパン「統合報告優良企業表彰」授賞式においでの際は、会場受付で取材の旨をお伝えいただき、お名刺をご提出いただきますようお願い申し上げます。

【連絡先】WICI ジャパン事務局

〒169-8050 新宿区西早稲田 1-6-1 早稲田大学大学院商学研究科 11号館 1139号室
西山 茂 研究室内

担当 花堂 靖仁(電話 090-3912-2729) 瀬川知恵子(電話 090-8728-8863)

【別紙】

1. 審査の目的

WICI ジャパン「統合報告優良企業表彰審査」の目的は、事業活動実績の財務報告に事業活動の価値創造を支える見えざる経営資源を加え、事業活動における両者の関係と結びつきを簡潔・明瞭に表現することにより、ステークホルダーが当該企業の価値創造活動を一層適確に捉えられるようになる報告書の作成を企業に促すことにあります。このような報告書が継続して提供されれば、企業とそのステークホルダーとの双方向コミュニケーションが高められ、企業の価値創造ストーリーを適確に捉えられるようになることを通して、事業体と社会の持続可能性を向上させることに繋がるものと WICI は考えております。このような報告書の作成・提供は、WICI が協力団体となっている IIRC が展開する事業報告活動と軌を一にするものに他なりません。

具体的には、本表彰審査において受けた評価を次年度以降の「統合報告活動」の取組みに反映できるように促すことで、統合報告の向上につなげることを主たる目的とし、「統合報告」「コーポレート レポート」「サステナビリティ レポート」「CSRレポート」「アニュアル レポート」等の名称の如何を問わず、直近の最終決算期末を基準とした年次報告として、2017 年 10 月までに上場会社が発表したものを対象に審査を行いました。

2. 審査ポイント

- 1) IIRCが定める<IR>フレームワークに定める必須記載事項を反映して、財務情報と非財務情報が定量的、定性的に整理され、またそれらが統合的に企業の価値創造力を示すよう工夫され、当該発行体の「価値創造ストーリー」が簡潔明瞭に記されているか。
- 2) 過去の事業活動で達成された成果と残された課題が整理され、それと今期の実績との繋がりが明確にされていると共に、それらを踏まえた将来の事業展開に関する戦略が、そのリスクと合わせて適確に見通せるようになっているか。
- 3) 営む各事業活動の価値創造ドライバーがKPI等を使って示され、経時的ないしピアグループ間で比較できるような形で提供され、また他の財務・非財務のデータとの繋がりが示されているか。
- 4) 事業活動の長期にわたる持続可能性を支える ESG 情報が提供され、当該発行体に相応しいガバナンス、経営監視体制が保たれているか。
- 5) 経営執行陣が自社の資本コストを自覚し、上場企業として株主への意識、及びその他のステークホルダーへの配慮とのバランスをもって経営に取り組んでいるか。

3. 審査手順

- 1) 審査事務局は、事務局長のもとでメンバー8 名が次の手順により予備審査を行った。
 - ① 東京証券取引所市場第一部上場銘柄のうち 2017 年 8 月末日の時価総額上位 250 社をリストアップし、上記「審査ポイント」に照らし、名称の如何にかかわらず<IR>に相当する年次報告書を発行している企業を選別した。
 - ② また、時価総額上位 250 社には含まれていないが、<IR>に相当する年次報告書作成していると判断できる発行体を加えて WICI「統合報告優良企業賞」の一次候補企業(以下「第一次候補企業」とした。

- ③ 上記第一次候補企業について、上記の「審査ポイント」を<IR>の一般的な構成に応じた具体的な評価項目に分解して、委員会事務局が独自に作成した「WICI統合報告優良企業1次審査シート(以下 1次審査シート)」により評価を行った。
 - ④ 1次審査シートによる評価にもとづき、一定以上の評点を得た発行体から本審査候補企業 20 社を選び、それらを審査委員に提示し、本審査から除くべき企業ないし本審査に新たに追加すべき企業の有無を照会した。
- 2) 審査委員は、次の手順により本審査を行った。
- ① 審査委員から候補企業についての削除・追加の申し出はなかったため、選定された本審査候補企業 20 社について、1 社あたり審査委員 4 名が、事務局の作成した「WICI統合報告優良企業 2 次審査シート(以下 2 次審査シート)」に基づき評価を行った。
 - ② 審査委員の 2 次審査シートによる評価が揃ったところで、審査員が集い、審査委員長の司会進行のもと、2 次審査会を催し、審査シート評点の実スコアおよびその偏差値スコアを勘案し、各審査委員の評価、推薦を基礎として、最終の 3 次審査対象企業を 7 社に絞り込んだ。
 - ③ 上記 7 社の報告書について全審査委員が精読したうえで、最終審査会を催し、上記の審査結果に至った。

以 上

【WICI ジャパン「統合報告優良企業表彰」審査委員会】

委員長 松島 憲之(三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株) チーフリサーチアドバイザー)

委 員 内山 哲彦(千葉大学法政経学部教授)

海野 みずえ((株)創コンサルティング代表取締役)

河口 真理子 氏(大和総研調査本部 主席研究員)

川原 稔 (株式会社バリューレイザー)

小西 範幸(青山学院大学教授)

清水 倫典(Gマネジメント アンド リサーチ)

鈴木 行生(日本ベル投資研究所代表取締役 主任アナリスト)

高井 康男(株式会社ファルコン・コンサルティング)

富田 秀実(ロイド レジスター ジャパン(株) 取締役事業開発部門長)

長田 清秀(東海東京調査センター)

野村 嘉浩(野村証券(株) エクイティ・リサーチ部エクゼクティブ・ディレクター)

花堂 靖仁(WICI ジャパン上席顧問)

本多 淳 (WICI ジャパン上席研究員)

光定 洋介(産業能率大学経営学部教授)

審査委員兼審査事務局長

宮永 雅好(東京理科大学大学院教授)